

Z会進学教室 葛西通信 11月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切にし、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

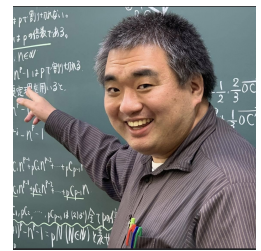
葛西教室より

葛西教室の先生の声をお届けします。

果てない世界へ～自分自身の遠い遠い未来のために～

数学科 阿部真也先生

小春日和の好季、いかがお過ごしでしょうか。2022年は今年も残り2カ月です。サザエさんのエンディングで行われるジャンケンをあとも10回も行わないうちに大学入試共通テストや千葉県私立高校入試が実施されます。入試に対して抱いている想いや考え方は各々で異なると思いますが、受験生においては合格の先に待っている楽しい高校生活や大学生活への楽しみが大きい方がきっと多いことでしょう。



そこで今回は自分自身のこれまでの仕事を振り返る機会も兼ねつつ、学び手である学生の皆さんや保護者の皆様にとって関心の高い「『入試で合格する』ための方向性」について私見を述べたいと思います。なお、私阿部は葛西教室で高校生の数学を担当しているので主に大学受験の一般入試に焦点を当て、時に教科の枠を超えたお話を進路指導を行う人間として進める形となります。ある意味で独断と偏見です。あまり深入りせず、「へえ、こういうこともあるんだな」などと思いながらゆっくり目を通していただければ幸いです。



【阿部先生の大宰府だより】阿部先生は毎年、太宰府天満宮に合格祈願に行ってくださっています！このコーナーでは、先日旅先から送っていただいたお写真を紹介します☆



〈1〉入試に受かるとはどういうことか

今年のプロ野球は東京ヤクルトスワローズの村上宗隆選手のホームラン記録や三冠王獲得がいつも話題にあがりましたが、ミスター三冠王といえば落合博満さんでしょう。史上最多の3度獲得しています(世界のホームラン王こと王貞治さんでも2度の獲得ですから偉大な数字です)。今から19年前のこの時期、つまり2003年の秋に中日ドラゴンズの監督に落合博満さんが就任しました。身長178cmなどプロ野球選手としては決して恵まれた体格ではなかったものの、通算本塁打数が510本と歴代6位の記録をお持ちの方です。



監督就任が決まった落合さんがある番組でタレントのテリー伊藤さんと対談しました。その時テリー伊藤さんが「どうしてあんなにホームランを打てたんですか？」と真っ直ぐな質問をします。なお、通算500本塁打を超える記録を持つ方は日本のプロ野球にはこれまでに8人しかいません(記録の高い順に、王貞治さん、故野村克也さん、門田博光さん、山本浩二さん、清原和博さん、落合博満さん、張本勲さん、故衣笠祥雄さん)。

そこで落合さんのこたえは「別に150m、160m打球を飛ばさなくても、あのフェンスさえ越えれば同じ点数が入る。要するにあのフェンスを越えさえすればいいんだろうと考えて打った。」という内容でした。もちろん落合さんもですが巨漢の外国人選手は球場の外まで打球を飛ばすことがあります。ただそれをしなくとも入る点数は一緒だということです。

それから落合さんは監督就任8年間で中日ドラゴンズを4回セ・リーグ優勝に導いています。特に最後の2年は途中で首位に10ゲーム差という大きく溝をあけられながらも、終盤に大逆転をして首位をかつさう勝ち方でした。特に、最終年となった2011年は年間144試合における142試合目での優勝決定となり、もう最後まで優勝はヤクルトか中日かという大接戦でした。大差であろうと接戦であろうと最後に1位であれば優勝は優勝です。ちなみに今年のパ・リーグはまさにシーズン最終戦でオリックス・バファローズが福岡ソフトバンクホークスを逆転して優勝を決めるというもっと痺れることが起こりました。

さて、話を入試に戻しましょう。受験にも一定水準の合格ラインがあります。受験者の中で1位は当然合格、そして合格最低点ギリギリでも同じ合格です。つまり合格最低点にさえ達すれば合格なのです。また受験生活を送る中でたとえ模擬試験の合格の判定がD判定やE判定ばかりだったにも関わらず実際の受験で合格最低点に達すれば合格、その一方で常にA判定など高い合格率をコンスタントに出していてもその日の受験で点数が届かなければ不合格となります。

いかに試験当日にピークに持っていかせて合格してもらうか、これまでの講師生活において自分には高校受験も含めてこのような仕事がほとんどでした。ぶっちぎりの合格は数えられるほどごく僅かですし、安全を狙ってランクを下げようという安易な判断はしたことがありません。常に私が見極めようとしていることは、最大最高で各生徒がどこまでのラインに到達することができるだろうか、という点です。



ただし、数字は出ていても「落ちる」と判断できれば厳しいことは伝えま
すし、逆に今は全精力が及ばずともここから2月の入試までのことを考えた時
にギリギリ達すると判断できればそのまま頑張らせて滑り込みで合格しても
らうように努めています。数字が出ていても受からないことはあるのか？と
いう疑問を抱く人もいるかもしれませんが、だからこそ数字では現れない重
大な要素を見極めることがこちらの立場では不可欠なのです。ですからその
逆もあるもので、生徒の可能性の芽をいかに見つけるかという部分も意識し
ています。私の進路指導は野球をご存知の方に通じる言い方ですと、まるで3塁コーチにで
もなったかのような心境です。何がともあれ、合格者の中でたとえ最下位でも合格は合格なの
です。



すると例えば高校受験において世間の方々から「下位で入ったら入学してから大変ではない
か」という意見を耳にします。高校入学後の伸びは本人の学習履歴で決まります。つまり、主
に①基礎力がいかに固いか、②根拠に根ざした学習をいかにしてきたか(思考回路は構築されて
いるか)、③母国語力はいかほどか、などで今後以降の伸びは決まります。下位で入ったとして
も数年後に上位に食い込めるのは葛西教室が証明済みです。本当の学習の成果は入試が終わって
何年か経ってから発現するものです。通過点として特定の単元の履修直後のテストをうまく凌
げたとしても、真の理解は思わぬところで試されてしまうのです。



〈2〉大学入試の難しさとは

高校入試は一部の学校を除けば一定の限られた地域の中学生在が集って試験が行われます。そ
の上で、公立高校を中心に各都道府県で同じような問題を目にすることになります。ですか
ら、首都圏や関西圏、そして九州の最難関高校入試では一部地方で学力の最上位層が人が長距
離移動して試験を受けるケースがあるもののそれは全体的に見れば稀だということです。

その一方で、大学入試は全国区の試験になります。特に2月末は国
公立の2次試験があります。その時期にコンサートなどのイベントが
重なるとなおさらホテルの予約がしづらくなるものです。また1月下
旬に多く行われる私立医学部の一次試験に主眼を置くと、今は地方に
ある多くの医学部は地方受験で東京でも試験を受けられるようになっ
ており、都内のホテルの予約をいかに早くするかで気を揉むケースも
東京都に近い都外の県から出てきます。東京を中心に、宿泊をしながら
受験をする地方の受験生の多さが目につきます。つまり、「地域的
な競争範囲の広さ」が大学入試の難しさの一つでしょう。



また、試験範囲に関しては高校入試は義務教育全てで習ったものが範囲となりますが、大学
受験はさらに高校3年分の範囲が増えます。すると特に理系科目においてどこかしの欠陥があ
ると新たに学ぶ分野の習得が困難になります。その上、内容は当然難しくなります。よくわか
らないけどとりあえずパターンを頭に叩き込んでなんとか凌ごう、という気の毒な学習者が出
現してしまい、受験生に配慮された入試であってもある種のギャンブルになりかねない状況に
陥ります。

本当は理系の学部に行きたいのに数学ができないから泣く泣く文系にせざるを得なかったというケースが自分の同級生を含め、生徒の同級生でも多いようです。たしかに現実問題として「履修内容の専門化・抽象化」による難しさがあります。ちなみに、高校の数学でつまづく人は小学生時代の基礎計算の行いや、中学時代に図形に関して根拠を明確にしながら学習を進めてきたかどうかなど、過去の学習の実態が一気に噴出してしまう現実があるように思えます。論より証拠、葛西での自分の仕事を見ていただければ何も言わなくてもいいでしょう。

ところで、文系科目も含めて高校で本格的な学習をしてつまづく場合の根源的な理由は、母国語力の欠如にあるのではないのでしょうか。例えば中学までの英語の学習では単語を訳していけばそれなりに日本語訳の文が出来上がってしまうケースが多いようですが、高校の英語ではそうはいかなくなります。なんとなく単語を訳したものの自分でも意味がわからなくなる人は、これまでの学習の仕方があまりにまずいことが明るみに出ているのです。どの科目も時機に合った日本語を充てられるかが力を測るカギになるでしょう。



我々人間は母国語を使って思考するので、そもそも母国語力が低ければ学力は伸びるわけがないのです。自分が生徒を分析する大きなポイントはそこにあります。この子はそれなりに高めの偏差値はあるものの母国語力の低さ故に「もうこれ以上は伸びないな」と判断することも生徒によっては当然あります。国公立大学を中心に難関大学の入試は記述式で行われますが、どの科目でも思考や表現の手段は母国語(日本語)になります。つまり日常における話し言葉とは異なる「妥協を許されない母国語力」が当たり前になる難しさがあります。

これだけではありません。特に医学部入試では一度大学を卒業された方やその上で社会人生活を経験された方が再受験するケースが増えています。大学ではないものの、自分の大学の同期では資格取得のために専門学校などに入り直して現在、資格を活かして現場で働いている人もいます。時代の流れでしょう。ですから極端な例ですが、理系の分野を専門として大学生活を送られた方が医学部再受験の際に科目によっては全く困らないものが複数出てきますと、その時点で現役の高校生や20歳前後の浪人生よりもすぐに優位に立つことになります。

他学部でも多少はありますが、「学部卒以上の学歴を持つ受験生との競争」という難しさが決してゼロではないという現実があるのです。ちなみに、自分は大学卒の受験生、そして年上の受験生を指導したこともあります。特に医学部入試に関しては依然としてその確率が増すことになるでしょう。



〈3〉入試問題をどのように捉えるか

我々指導者は毎年「全国大学入試問題正解(旺文社)」を中心に大学受験の問題を見ることになります。今ではインターネットなどの技術により、早めに問題自体を手にすることができるようにもなっていますが、毎年大学がつくる問題を目にとると全国各地で高校の学習内容に基づいてこんなに問題がつくられるものかと感心させられます。

例えば国公立大学だけで200を超える大学があり、ほとんどの大学で私が担当する数学の試験が個別試験であります。そこに学部によって違う問題形式を課すとその種類は増え、なおのことバラエティに富むものです。その上で前期のみならず中期や後期もある大学はまた別の問題をつくることになります。毎年です。



そこで一つ考えてみましょう。入試問題は誰がつくっているのでしょうか。原則として生徒を受け入れる側の先生と考えられるでしょう。中学校の先生は中学校の教科書を、高校の先生は高校の教科書を、そして大学の先生は大学で教える内容をご自分の指定した書籍等を用いて授業をされます。入試問題は受験生の履修内容を踏まえて作られることになるわけですが、普段先生方が教えている内容を踏まえて受験生の習った内容に落とし込んで出されることもあるわけです。

わかりやすい例として、中学受験の算数について一旦考えてみましょう。算数の入試問題は中高一貫校の数学をもとにつくられると考えると、例えば「規則性」に関する問題は主に高校で習う「数列」を背景につくられるわけですし、最難関中学受験の問題となれば問題文の表現を変えると一瞬で大学受験の問題に変わることも珍しくありません。受験生本人や保護者の方などほとんどの入試に関係する方々はまるで目の前の壁を打ち破るように入試を捉えていると思いますが、こちらは正反対の方向から、つまり入学後の履修内容を踏まえたうえで捉えることができるのです。

ですから、大学入試の数学の問題のバックボーンについて「この問題は○○の定理が背景だな。」と改めて大学の本を開くなどいたしますと指導者の立場での学びは止むことがなくなるものです。また、もっと他に高校入試についてを話題にすれば「相似」「円」「三平方の定理」がどうして頻出になるかは数学Ⅰで習う「三角比」が直結しやすいからでしょう。今では数学Aの「図形の性質」もそうです。また、小学校の算数で習った「割合」「比」が中学校で習う理科で使われるように、算数や中学校で習う数学は高校の理科にも少なからず影響を及ぼします。入試で頻出の分野とは、その先の学びの素地を構成するものでもあると言えます。

だからといって「じゃあ、どんどん先の内容を進めればいい」と安直に決断するのも考えものです。もちろん、数学が好きで正しい方向性を持ってたくさん勉強されている若い方もそれなりにいますが、全員が同じように定着しているとは決して言えません。よく、中学生で「自分(自分の子供)は高校の内容まで進めています」というお話を本人や保護者の方がされることがありますが、残念ながら自分が出会ってきたケースは全ての状況が芳しくありませんでした。例えばそのような生徒に限って中学1年生の方程式の文章題が全く手も足も出ないなど、枚挙にいとまがありません。ここからうまく勉強の仕方が修正できた生徒は指導経験上これまでにたった一人しかいません。もし仮にそのやり方が正しいと仮定するならば、高校で数学Ⅲを履修している学生はかつてのセンター試験や共通テストなどそれ以前の履修範囲のみから出題されている試験で全員満点が取れるはずで、要は、基礎力がいかに拡充しているかが重要ということで、土台が固ければ吸収も早くなるうえ、対応できる試験の種類も自然と増える可能性を手にあります。

ところで、ここ30～40年近くでしょうか、大学受験の影響から「偏差値」という言葉が世間にも随分浸透しました。しかし、それゆえに数字の解釈の仕方が決して適切とは言えない場面も多々見られます。そのような意味で、高校生など10代の学生が周りの大人の影響も決して小さいとは言えない現状があります。それだけに自分もしっかりしなければいけないと思わされる日々です。私の立場で生徒と接していると、いくつかの大学を受ける中で複数の大学の偏差値が同じくらいであることがよくあります。その生徒さんの偏差値がゆうに超えていれば全部受かると思われがちですが、そうはいかないのが大学受験なのです。同じ偏差値とされているとはいえ、その生徒にとって力が発揮しやすい試験か、それとも形式的に合わないかなど、一歩踏み込んで考えるようにしています。

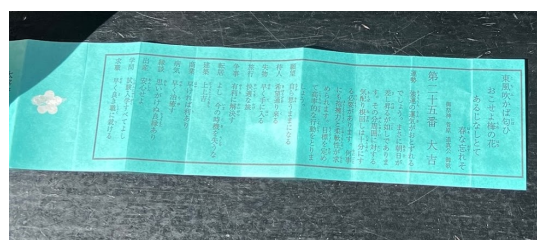
入試問題を一つの「競技」と捉えたとき、それがその生徒に合うかどうかの見極めはするようにしています。自分は日頃の指導を通して全てのタイプの「競技」に対応できるように意識して数学の指導をしていますが、現実的に個々の受験生によって向いている問題は分かれるものです。「競技」の種類は詳しく見ると多様なものです。自分の見地において本人の意思の尊重を前提に、本人にとって合うものを提案するようにしています。一方、どうしても行きたい大学があればその試験に見合った力をつけた上で形式にも合わせられるようにすればいいのだろうと考えています。



【阿部先生の大宰府だより②】



↑雲一つない快晴！
にぎわっていますね～



↑おみくじは大吉！

↓牛は菅原道真公の使いとされており、
太宰府天満宮には牛さんの像が11体あるそうです。



〈4〉依然と人気の高い医学部受験～過去問の活用の有効性～

かれこれ15年以上、国公立や私立を問わず医学部受験は加熱し続けています。私立の医学部は今や、理工学部との偏差値でいえばどこも早慶以上に匹敵する難しさになっています。もちろん、単純比較はできません。私立の医学部の一般入試では数学や理科、英語の教科に関する試験に加えて小論文や面接も課されます。それが早慶上智の一般入試と大きく違います。



また、私の担当する数学に関して言えば、多くの私立医学部は基本的な問題が多く配列され、答えのみを記入すればいいものもそれ以外の入試に比べれば多くあります。しかし、同じ大学の問題を10年分並べると今に近いほど難化している大学が多く、問題数の割に時間が短いです。そして、早慶を筆頭とする医学部以外の最難関私立理系の問題よりも比較的正答に至りやすい問題が多い分、高い割合で正答しなければならないいけない難しさがあるのです。つまらないミスをしている暇は微塵もありません。

その上で、数学以外において例えば、理科に関しては自分の特性を活かす上で重要な科目になります。多くの大学では物理、化学、生物の3つのうち2つの選択になります。そこでです。理科の配点が問題になります。半数近くの大学は英語100点、数学100点、理科は2科目で計200点と、理科1科目が占める配点の割合が25%となります。

それだけではなく、中には英語と数学が150点ずつで理科は2つで計200点(理科1科目あたり20%)のパターンや、英語と数学で100点ずつに対して理科が2つで150点(理科1科目あたり約21.4%、2科目で約42.9%)などというパターンもあるので戦略上考慮すべき重要事項であることは言うまでもありません。

それと医学部の受験の特徴を物語るのが英語の問題でしょう。長くて設問が多いのも特徴です。自分のかつての教え子でも高校生で英検1級を取得していながら、初めてある最難関私立医学部の英語の入試問題を解いてみたら半分程度しか解けなかったということも普通にあります。たしかに制限時間にしては随分問題数が多いですが、受かる生徒は試験当日には皆高得点を取る特徴もあります。

私立医学部の入試は数学1科目だけで見ても出題のされ方は個々の大学によって異なるものです。得意な生徒でもすぐに適応できる問題とすぐには対応しづらい問題と分かれたりします。それが他教科も含めて総合的に見るとどうなるか。その見極めが重要ではないかと一指導者として個人的には思っています。



ここで過去問について簡単に意見を述べることにしましょう。まずは一通りの単元学習をしていない状態で手をつけるのは無意味です。傾向を知る前に覚えるべきものがたくさんありますから優先順位を間違えないようにしないといけません。本人もそうですが周りの大人が焦ったり急かしてはいけません。一方、単元学習を全て終えてある程度習熟してきた方は赤本などにある問題を古い順に取り組むことを勧めます。ある年の受験生はそれまでの過去問を解いた上で本番の入試問題に臨んでいるので似たような場面で新しい問題を解いてみるのが望ましいでしょう。

そこで解けないものが多くても落胆しないでください。これまで自分が学んできたことと入試で要求される水準や本来あるべき理解度とのギャップを知り、復習を通じてそれを埋めていけばいいわけです。たしかに過去問と同じ問題は受験校では二度と出ないかもしれませんが、しかし、過去問演習を通じて日頃の学習が入試に直結しているかどうかをはかり、本来深めるべき理解度を認識し、出題者が要求するであろう妥当性を考え、得られた教訓を日頃の学習にフィードバックすることが大切です。過去問は使い方次第で自分の力をつける素材になるものが多くあります。過去問を有効に使わない手はありません。



〈5〉国公立医学部に関して

まずは私の担当している数学に関してなのですが、国公立医学部については以下の通り3つに分類できます。

- ①医学部が総合大学の1学部で他の理系学部と完全に同じ問題
- ②医学部が総合大学の1学部で、一部は他の学部と同じ問題が課されるものの残りは医学部のみを対象にした設定がある問題。
- ③国公立単科医科大学で初めから医学部医学科の受験生のみを対象とする難問が多い問題

①については東大や京大を中心とした旧帝国大学がまさしくそうです。理学部や工学部など他の理系学部の合格に必要なラインに比べて総合的にも最低2割以上、医学部では多く点数を取らなければならなりません。ですから、地方の旧帝医学部医学科は他教科も高い正答率が要求されて苦手教科を持ってないことが、東大や京大並みに入るのが難しいと言われる所以となります。



②に関しては首都圏では群馬大学や千葉大学が典型的でしょう。千葉大学を例にすると、9問から多い時で14問の問題があり、各学部毎に解く問題が指定されます。千葉大学医学部医学科前期入試の場合、医学部医学科だけに課される問題が年によってあり、それが一番完答が厳しい問題となります。なお、ここ2年は理学部数学科・情報数理学科と2学科のみの共通問題が1問あり、それが一番難しいものになっています。

③については首都圏近郊ですと福島県立医科大学、浜松医科大学などが例にあがるでしょう。対象が医学部医学科の受験生のみですから、ハードな問題が続くことも珍しくありません。なお、山梨大学、福井大学、島根大学、香川大学、高知大学、佐賀大学、大分大学、宮崎大学にある医学部医学科はかつての山梨医科大学、福井医科大学、島根医科大学、香川医科大学、高知医科大学、佐賀医科大学、大分医科大学、宮崎医科大学の医学部医学科で2002年から2003年に各県の国立大学同士で統合した経緯があります。また富山大学医学部医学科はかつての富山医科薬科大学医学部医学科で2005年に富山大学と統合しています。これらの医学部医学科の中には今では他学部の共通問題として標準的な問題が並ぶところがあれば、元単科医科ということからか他学部よりも難度の高い出題がされているケースがあります。



自分は数学の担当ですので数学の問題を通して入試を見渡すのですが、大学の歴史や沿革に目を通すとなおさら入試問題の特徴に合点がいくこともあります。前段落のかつての医科大学もそうですが、例えば筑波大学(前・東京教育大学)や広島大学は元々、学校の現場に立つ教員を指導する立場の人材、つまり「先生の先生」を養成する大学でした。今もその色合いはありますが入試問題では教育的観点・教育的意図がわかりやすく、たとえ昔の入試問題であったとしても今も決して色褪せることのない良問を目にすることができます。奇をてらった問題は皆無です(但し、『簡単』とは意味が違います)。

数学だけでもそれなりに分類できるのですが、それが理科となるとどうなるか、さらに英語はどうかなど大学によっては出題のされ方が違うものです。岐阜大学医学部医学科前期入試を例に挙げれば、数学は工学部や一部の教育学部の受験生と、理科は他学部を受験生と完全に同じ問題が課される一方、英語だけは応用生物科学部共同獣医学科と同じ問題が課され、相対的に英語の難易度が高くなります。

首都圏在住の医学部受験生が地方の国公立医学部を受けて6年間、それまでと違った生活することは珍しいことではありませんが、そこに至る過程の中で各教科の特性の組み合わせにより多様な特徴が各大学にはあるものです。また補足として、東京大学や京都大学以外に名古屋大学や山形大学の医学部医学科は二次試験で国語が必須となります。最近の首都圏の医学部受験生の多くは入試自体の難しさを認識しているので、「入れれば地方でも厭いません。」というケースも珍しくありません。ですからなおさら試験の特徴を知る必要性もこちらに出てきます。



生徒の特徴、保護者様の要望、大学の合格最低点から考えられる必要な学力の高さ、各大学の配点などといった観点から受験生本人が一番力を発揮できた上で次のステージに進出することを考え、自分は進路指導をしてきたつもりです。素人の方の冷やかしが仮にあったとしても常に自分はベストを尽くし切っているので何を言われても常に泰然自若でいられるわけです。機会があれば何なりと申し付けてみてください。



【阿部先生の大宰府だより③】青空と水辺と緑、癒しの風景ですね...！



〈6〉医学部以外にもあるハードな受験

公表されている合格最低点を眺めていると、医学部医学科以外にも「この学科も難易度が高いな」と気付かされるものです。既に知られているものも含めて挙げていきたいと思います。まずは獣医学科。そもそも数が少ない上、受験生のレベルはトップクラスです。国公立大学では北海道大学、帯広畜産大学、岩手大学、東京大学、東京農工大学、岐阜大学、鳥取大学、山口大学、宮崎大学、鹿児島大学、大阪公立大学(2022年度より、大阪市立大学と大阪府立大学が統合)のみとなります。一方、私立大学でも酪農学園大学、北里大学、日本大学、日本獣医生命科学大学、麻布大学、そして2018年に開設されたばかりの岡山理科大学とわずか6大学のみとなります。

次に薬学部薬学科。これは国公立に限らせてもらいますが、北海道大学、東北大学、千葉大学、東京大学、富山大学、金沢大学、京都大学、大阪大学、岡山大学、広島大学、徳島大学、九州大学、長崎大学、熊本大学、静岡県立大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学の17大学でした。そこに2018年には山陽小野田市立山口東京理科大学が、そして2021年には和歌山県立医科大学に薬学部が開設されましたが、それでもなお19大学のみという状況です。とにかく、両者とも設置されている数が希少ですので、経済における需給関係に置き換えれば現状がよく理解できるのではないのでしょうか。



なお首都圏においては獣医になりたい受験生や薬学部に進みたい受験生が東大を志望したとします。すると理科Ⅱ類を受験することになるわけですが、合格して入学後に「進学振り分け」によるさらなる競争を勝ち抜いて人気とレベルの高い獣医学科や薬学科(6年制)へと進むわけです。すると受験生の心理として、仮に東大に進んで獣医や薬剤師になれなかったらどうするかということを考える人もいるわけです。初めからそのようなことを考えたくない人は東大受験を避けて例えば東京農工大学の農学部獣医学科や千葉大学薬学部などを受けることも珍しくありません。



ですから東京農工大学の農学部獣医学科の合格最低ラインは同大学の他学科と比べて頭抜けていますし、千葉大学薬学部は医学部医学科に次いで合格ラインが高くなっています。他にも、東京工業大学の情報理工学院が代表例ですが最近は情報に関する学科の人気が高まっているので入試における難易度も高くなっています。東工大の情報理工学院は他の学院に比べて2次試験の正答率が10%~15%ほど高いラインが要求されます(10月13日に東京工業大学と東京医科歯科大学が2024年度の統合を目指すことが報道されました。今後の動向から目が離せません)。



【阿部先生の大宰府だより④】

こちらは名物の梅ヶ枝餅。
美味しそうな焼き色です！



また、早稲田大学の理工系を例に挙げると「生命理工」に関する領域が、農工大においては獣医学科に次いで農学部応用生物科学科も高い点数が受かるためには他学科よりも必要です。他の大学も含めてみますと、経営工学(大学によっては「管理工学」「経済工学」「数理工学」など)と呼ばれる分野、さらには文系ですと心理学科の人気の高さが変わらず高いまま続いています。



それから目新しい分野の学部の人気の高さも伺えます。例えば、データサイエンス学部です。昨今の社会的需要からといえるでしょう、国公立大学では2017年の滋賀大学を皮切りに2018年には横浜市立大学で設置され、来年度に2023年度には一橋大学や名古屋市立大学にも置かれます。一部の国公立大学や私立大学では、理工学系の学部の中でこれに関する学科やコースが追加的に設けられたりなどしています。横浜市立大学では5倍を超える倍率の年もあるなど、競争の激しさが伺えますが期間がまだ短いのでもう少し情勢を見守りたいものです。

医学部に関連した応用的な分野や実用的な分野の人気の高まりはあるといえます。なお、個人的には中央大学法学部が多摩キャンパス(八王子市)から茗荷谷キャンパス(文京区)に2023年度から移転するので、首都圏の私立文系最難関受験におけるこれからの動向も特に気になります(ちなみに、中央大学の附属の中学や高校の受験にも多少なりとも影響が出てくるでしょう)。



さらに、昨今の大学入試では国語や英語や小論文でその学部の専門的な内容のみならず学際的な側面からなのか、教科のイメージとは離れた内容やそれを素材にした文章による出題も目にすることがあります。例えば、2021年度の慶應義塾大学環境情報学部の小論文では数学が絡んだ出題がされています。英語と小論文のみに絞って対策をした受験生はさぞ大変だったことでしょう。また、2017年の上智大学(外国語学部英語学科、法学部地球環境法学科)の現代文で扱われた出典が「√2の不思議(足立恒雄著、ちくま学芸文庫)」、同じく2015年の上智大学(文学部(哲学科、史学科、新聞学科)、法学部国際関係法学科、外国語学部(ドイツ語学科、ポルトガル語学科))の現代文では「物理学と神(池内了著、講談社学術文庫)」でありました。もちろん問われている内容を答えるという部分ではその分野の知識の多寡は無関係と思われませんが、理系科目を避けて文系科目のみに絞った勉強だけしかしなかった受験生には、現実問題として試験会場で精神的に乱れてしまった人も決して少なくなかったかもしれません。時代の流れとともに、国語や英語の先生は大変になっていくと思われされます。生徒の皆さんには広い分野に触れ、学び、「自家薬籠中の物」として培ってきた知を使いこなせることを目指してもらいたいものです。

ところで、ここであげた大学を希望されたりその学部・学科への興味・関心がある方の中には「難しいなら諦めようかな」と揺れる想いに打ちひしがれそうになった方もいらっしゃるかもしれません。しかし、入試問題を多く見てきた立場として言わせていただくならば結局難しいと言われる大学の問題でも突き詰めれば結局「基礎」が大事になります。学習を進めることは基礎を知ることにつながります。基礎ほど難しいものですが、それが拡充できればさらなる演習を通じて多くの問題に対応できるようになります。

重ねて、受験生で学習が進んだ方には時期に応じて過去問に触れていただきたいです。時期に応じて、です。テキスト等での学習経験をもとに、実際の入試問題と対峙してみてもどの程度のレベルで尋ねられるかを知っておくといいでしょう。数学で言えば、「A大学で親切に思える誘導がついているのにB大学では誘導がない」など違いを知ったうえで自学自習に生かしていけばいいのです。限られた時間内で力を発揮するために、まさしく競技性を高め、大学側の意図に寄り添えるように準備しておきましょう。仮に、実際の入試でこれまでの過去問の形式が変わったとしても、そこでは妥協せずに向き合ってきた経験と基礎力が自分を助けてくれるのです。

〈7〉 全ては皆の笑顔のために

この仕事を始めてからまだ数年しか経っていなかったある日、ふと日本経済新聞を読んでいるとたしか最終ページの「私の履歴書」のそばのコーナーにだったか、最終面の裏のページにだったか、とある歴史の長い眼科のお話を書いてありました。「身体の一部としてみる目」という内容だったと記憶しています。怪我をしたら外科、体調がすぐれなければ内科、鼻の状態が悪くなければ耳鼻咽喉科など、該当箇所や状態によって足を向けるべき診療科目のある病院は既に決まっているようなものです。ですから、自分の場合はまるで電気機器の部品のような感覚で自分の身体を考えてしまっていたのかもしれませんが。神経や筋肉、内臓は全身つながって運動するという当たり前すぎる視点のなさに驚きを隠せませんでした。



そこでふと自分の仕事が頭をよぎりました。自分は限られた科目だけを教えているものの、かつては生徒と同様全ての科目を一つの頭で考えてこなしていたよな、と。そこで教科指導や進路指導の際、「全教科からみた数学」という観点が自分の中で芽生えたのでした。人間の表現の手段として「言語」があり、それを補完するものとして数式や図形やグラフといった「モデル」があります。入試科目の壁を一旦なくして大学入試で問われるものを突き詰めて考えれば「読み・書き・そろばん」の力です。つまり、言語力と計算力を基本とし、その上で論理を運用したり幾何的な概形をもとに考えていくことです。結局はその繰り返しではないでしょうか。

いざ、数学を担当する立場で生徒と向き合うと全体的な偏差値が高くとも数学だけは上手いかなないケースや、基本的な問題が多ければ高得点はできるものの最難関向けの問題には全く歯が立たないなど、個々によって様々な事情があります。そして思いの外、数学を苦手としている人が多くて驚きました。中学生で数学が苦手であればせめて高校の学習で今よりも理解が捗るようにしっかり思考力をつけさせるための手段を講じたりなど、彼らが日々少しでも前進できるような指導をしてきました。高校生も同様です。そして全教科から数学という科目を捉えてみて、苦手な生徒に関しては足を引っ張らない程度に合格への足しになるよう各々の中でうまく目標設定できるようにしてきたつもりです。麻雀がご存じの方に通じる言葉を使うならば「いかに入試の数学で『ラス』を引かないようにさせるか。」ということです。

駆け出し時代は高校受験は全てのレベルで全教科の指導経験を積み、高校生を中心に大学受験では数学以外にも理科全般や英語の指導も経験しました。その甲斐あってか、今では進路指導に当時の経験を活かしています。駆け出し時代は「面倒臭いな。早く数学だけに専念したいよ。」と思ったほどでしたが、やはり「若いうちはたくさん学べてよかったな、他の人にはできない経験をするのも決して悪くなかったな」と今では確信しています。



冒頭で登場した落合博満さんは中日ドラゴンズの監督時代「勝つことが最大のファンサービス」と公言されていました。勝つこととはセ・リーグのペナントレースを制覇することです。中日ドラゴンズは落合博満監督就任前の2003年までは当時67年の歴史で5回しか優勝をしておらず、日本一は1954年を最後に遠ざかっていました。就任8年間で優勝4回、日本一1回(2007年リーグ2位からポストシーズンを勝ち上がったの日本一)の戦績でした。シーズン全ての試合に勝つのは不可能であるものの、一つでも多くの試合に勝ち、ファンに「燃えよドラゴンズ(球団の応援歌)」を歌ってもらおうと思っていたと2013年3月末に品川区大崎にある立正大学で行われた講演会で仰っていました。

ドラゴンズ以外にこれまでの球団で黄金期を築いたところはその後、どういうわけか長く低迷することもあります。他のプロスポーツでもそうでしょう。対戦相手もプロですから当事者である選手は常に必死だったはずですがおそらく、勝つことが当たり前になりすぎて気が緩んだ関係者が多かったのだろうと推測します。自分はドラゴンズファンでありながら述べるのは残念なことですがここ10年少々の、今の中日ドラゴンズがまさにそうでしょう。一度沈んだ船をもう一度起こすことは想像以上に時間と労力がかかりますが、立浪和義現監督の来年以降の手腕に期待です。「油断大敵」「勝って兜の緒を締めよ」「実るほど頭を垂れる稲穂かな」といった謙譲の精神を胸に、向上心を常に抱いていたいものです。

塾や予備校の仕事は「サービス業」に括られます。個人的に身近なサービス業には「飲食業」がありますが、美味しいことを前提として、その美味しさが卓越していたり、お店によっては美味しいものを目で見るだけで楽しめたり、接客が良かったり、店内の快適な空間や演出に心を躍らせられたりなどしながら、その場を楽しく満喫できるものを指すことになるでしょう。しかし、長丁場で受験に備える際、塾や予備校と関わる期間において生徒さんや保護者様の立場では良い時もあればそうでない時も当然出てきます。そこで考えていただきたいのは、「絶対に笑って過ごしたい時期はいつですか？」ということです。

勝つこと、合格することは決してたやすいものではありません。だからこそ、全ては受験を終えた3月に心の底から思いきり笑って桜の花を眺めてもらいたい、その一心でこの仕事に打ち込んできたつもりです。一番進みたいと思った道を切り拓かれた瞬間に溢れる、受験を終えて合格通知を勝ち獲ったばかりの本人の笑顔、合格者のご家族の皆さんの喜びの笑顔、そして教室内で溢れるであろうありったけの笑顔のために。自分がこの仕事を続ける限りその方向性がブレることは決してないでしょう。合格に導くための教科指導と進路指導の両立は決して簡単な仕事ではありませんが、今までも、そしてこれからも、指導者として常に研鑽せねばという思いです。



【阿部先生の大宰府だより⑤】

豊かな自然と由緒ある立派な建物、こういうところを人はパワースポットと呼ぶのですね...！



〈8〉果てない世界へ

受験生として過ごしてらっしゃる皆さんは今、来年の合格を夢に見てそれを現実のものにしようと日々、受験勉強に勤しんでいることでしょう。自分自身の奥底で眠っている未知の力を引き起こすべく努力を続けてみてください。自分が一番行きたい進学先に進んでいただきたいと心から思います。

そこで来年の4月からは自分の世界が想像以上に広がることでしょう。同級生との新たな出会い、先生方との新たな出会い、そして目の前で展開される学問の世界の広がり大きな刺激を受けることになるでしょう。特に現在の高校3年生は出身地や育った環境、そして年齢などの違う同級生や海外からの留学生との思いがけない出会いも起こるでしょうし、教授や准教授などの先生方の知の巨人ぶりに圧倒され、高校までに習ったことは一体何だったのかと思えるほどのアカデミックな世界の壮大さに良い意味でカルチャーショックを受けるのではないのでしょうか。



果てない世界へ、どんどん未知の世界を駆け抜けていく意味でも今を精一杯生き、この先に待っている楽しい日々を想像しながら受験勉強を乗り切ってもらいたいです。一度や二度のテストなどの失敗で背を向けることなく、その出来事をまるで遠い過去の思い出とすべく走り出しましょう。あなた方の持っている才能からして自分の力はまだまだそんなものではないはずです。強靱な基礎力を受験勉強を通じて固めてもらいたいです。受験勉強によって得られた知識や経験は、自分次第で必ず役に立たせられます。

大学を出ていながら学校で習ったことは役に立たないという人は、それなりに多くのレゴ・ブロックのパーツを手にしながらか結局何もつくれないうる惨めな状態にある人に似ているのではないのでしょうか。昨今では実学の重要性が叫ばれていますが、その意見は大学時代に実学的な要素にも多く触れてきた自分も理解できます。しかし、その中には時代の経過とともに陳腐化していく知識も必ず出てきます。ですからいつの時代にも対応できた上で新たな応用を生み出すためにも、学生の方や学びの重要性に気づいた社会人の方々に「肥沃な基礎力」を大事にしてもらえたらと考えます。

受験生の皆さん、自分自身が欲しいものや大切なものは勇気を振り絞って、自分の手で獲得するものです。もしも自信が持てない時はひとまず立ち止まってからまず、自分のできることだけを整理・確認し、1日を精一杯過ごしてみることです。つまづきや戸惑いを覚えることは自分が今までに出会ったことのない、「知らない自分」を見つけられるチャンスであると言い換



えることができるのではないのでしょうか。心持ちが変わると行動も変わるものです。一歩踏み出す勇気を手に入れた暁には、それまでただ希望を願うだけだったかつての自分と決別し、顔を上げて怖がることなく前だけ見て歩み出してもらいたいです。心持ちが変わる期間がたとえ遠回りであったとしても、後に振り返るとそれがあなたにとっての近道であったと気づける瞬間が訪れるかもしれません。自分の未来は待っているものではなく、自分の手で育てるものです。

一人で心細い時は自分の目の前にいる人、そして自分の周りにいる人を見てみましょう。きっと「自分はひとりじゃない」と認識できるはずです。目標を達成させようとしている人、その手助けをする人たちが構成される空間で他者の力を借りるのも一つの方法ではないでしょうか。同じ机を並べる人たちから刺激を受け、周りの大人から時には励まされ、時には叱咤を受けながら、試験会場に向かうのは自分一人かもしれないものの、周りには自分を支えてくれる人が必ずいるんだと実感してくれたらいいなと思います。先の怖さを抱くのは受験生ならば当然にしてあります。もう少し、あと少し・・・そう言い聞かせながら不安な気持ちをペンに乗せて受験勉強に打ち込むと努力の量が自然と増える上、不安はゼロに近づくことになります。



これまで色々なことを綴ってきました。自分は偉そうなことや大それたことを発言することは全く好きではありません。元来、できることなら自分の考えを発信することなく貝殻のように閉じこもっていたいと思う人間です。ましてや受け手に都合良く解釈されて真意を掴んでもらえていない事態には絶対に遭遇したくありませんからなおさらです。しかし立場上、どうしても厳しいことを言わなければならないことが多々あり、心苦しい心境で言っています。その甲斐あってか「立場は人をつくる」と言われるもので、今の自分はこの場でこれまで出会ってきた方々によってつくられてきたのも事実です。そしておかげさまでこのZ会で既に15年を超える指導経験も重ねることができました。ここで培えたことを一度整理してここに還元することにより、これからさらに誰かしらのお役に立てられたらという想いもあります。

実際に自分自身が発してきた言葉を自分自身にまっすぐ向けて見るとその度に、自分の未熟さに愕然とさせられるものです。ただ、それに負けじと愚直に日々前進していただけたら、と毎度同じような結論に至ります。それが自分自身を奮い立たせる契機になるとともに、冷静にかつ誠実に仕事と向き合うきっかけにもなっています。そして自分も若い生徒の方々と同様に、自分にとっての「果てない世界」へ足を踏み入れ、世界観を常に広げられるように停滞感を避けながら過ごしたく思います。そして、生徒の皆さんから活力をいただきながらこれからも自分自身の真価を高め、仕事の深化を図り、自らの成長を超えた進化を意識しながら過ごしていこうと思う所存です。たった一度きりの人生、悔いのないものにしたいものです。生徒の皆さんや受験生、そして保護者の皆さんの幸運を心から祈ります。来春、笑顔の花が満開になりますように・・・



月	日	曜	受付	本科生スケジュール				本科生以外の方対象のイベントなど	
10	29	土	14 ~ 22		※中3理社 休講				
	30	日	10 ~ 20	11月度②					
	31	月	14 ~ 22						
11	1	火	14 ~ 22						
	2	水	14 ~ 22						
	3	木		休室					
	4	金	14 ~ 22						
	5	土	14 ~ 22						
	6	日	10 ~ 20	11月度③					
	7	月	14 ~ 22						
	8	火	14 ~ 22						
	9	水	14 ~ 22						
	10	木		休室					
	11	金	14 ~ 22						
	12	土	14 ~ 22						
	13	日	10 ~ 20	11月度④					
	14	月	14 ~ 22						
	15	火	14 ~ 22						
	16	水	14 ~ 22						
	17	木		休室					
	18	金	14 ~ 22						
	19	土	14 ~ 22						
	20	日	10 ~ 20	12月度①		2V 月例テスト	1V 月例テスト		
	21	月	14 ~ 22						
	22	火	14 ~ 22						
	23	水	14 ~ 22		駿台模試			中1中2学力診断テスト 15:00~17:50	冬期説明会 15:00~16:00
	24	木		休室					
	25	金	14 ~ 22						
	26	土	14 ~ 22		中3 自校作成プレテスト				
	27	日	10 ~ 20	12月度②					
	28	月	14 ~ 22						
	29	火	14 ~ 22						
	30	水	14 ~ 22						
12	1	木		休室					
	2	金	14 ~ 22						
	3	土	14 ~ 22						
	4	日	10 ~ 20	12月度③				冬期準備テスト 9:30~13:00	冬期説明会 10:30~11:30
	5	月	14 ~ 22						